

提出された意見等の概要とこれに対する考え方

案件名 兵庫水素社会推進構想改定案
 意見募集期間 令和8年2月24日～令和8年3月16日
 意見等の提出件数 21件（8名）

A 反映した	計画等に反映した意見
B 既に盛り込み済	その趣旨が既に計画等に記載されている意見
C 今後の検討課題	今後、計画等を推進する上での課題とする意見
D 対応困難	対応が困難な意見
E その他	計画等に関係のない意見や感想

項目等	意見等の概要	件数	対応	県の考え方
全体 (計画全体への評価①)	<p>コロナ禍以前、家族で訪れた書道展の会場で水素自動車の展示を見学し、現在の車と遜色ない技術に驚いた。また、地球温暖化対策への貢献を強調された説明に感銘を受けた一方、車両価格や水素ステーションの普及が課題と聞いたことを思い出した。</p> <p>近年の異常気象が温暖化と関連すると言われる中、水素は重要な対策の一つであり、遠い存在と思っていた水素活用にも但馬地域で多様な可能性があると感じた。構想を広く共有し、技術の進展に応じて県が普及啓発に努めることで、県民も取り組みに協力し、次世代により良い環境を引き継ぐことにつながるのではないかと考える。</p>	1	B	<p>ご意見のとおり、水素の利用は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出削減に寄与するものであると認識しています。本構想では、54ページに記載のとおり、取組の方向性の柱の一つに「普及啓発・理解促進」を位置付けており、水素を活用する意義や安全性を分かりやすく、将来の水素社会を担う小中高生等への普及啓発に努めてまいります。</p>
全体 (計画全体への評価②)	<p>・2050年の姿をイラストを活用し、ストーリー形式で表現されており、非常に分かりやすい内容であった。</p> <p>現在の開発状況など初めて知ることができた。多くの人に知ってもらうことが必要だと思う。</p> <p>・難しい内容も多いが、もっと簡単にしたり、目を引きやすいデザインにして多くの人に知ってもらうようにしてはどうか。</p> <p>・2050年の兵庫県がこのような水素社会になってもらいたい。</p>	3	C	<p>これまで県内各地のイベント等において、パネル展示や水素体験会を通じ、県民の皆さまへの普及啓発に取り組んできたところです。今後は、構想の内容を簡潔に取りまとめたリーフレットを作成し普及啓発活動の場で配布するなど、兵庫水素社会推進構想に関心を持っていただくきっかけづくりにも取り組みます。</p>
全体 (計画全体への評価③)	<p>・体系的で全体像が明確に示されており、2050年のビジョンとして、環境面の効果、生活・安全保障、経済・産業活性化といった社会像を多面的に提示しており、読者が「実現後の社会」を具体的にイメージしやすい構成になっている点や、兵庫県の地域特性や強みを明確に位置づけている点などの工夫を感じた。</p> <p>・改善点としては、図表内の文字が小さく読みづらい点があること、概要版と本文のすみわけとして、もう少し概要版の文字を減らしてもよいかと感じた。</p>	2	C	<p>概要版は、本文を読まれない方でも全体像がつかめるように、との考えのもと、必要な情報がある程度盛り込んでいます。今後は、構想の内容を簡潔にまとめたリーフレットを作成します。</p>
全体 (モビリティ分野におけるエネルギー利用のあり方)	<p>・現状、自動車（トラック、バス、タクシーなども）、自転車など電気が使える場所においては、電気を使う方が効率的だということに記載すること。</p> <p>・自動車、自転車など水素利用を無理に進めないこと。</p> <p>・原則、電気自動車等の普及を進めることを記載すること。</p> <p>参考) 日本エネルギー財団 日本の水素戦略の再検討: 「水素社会」の幻想を超えて https://www.renewable-ei.org/pdfdownload/activities/REI_JapanHydrogenStrategy_202209.pdf P6 エネルギー効率 電気自動車69%、燃料電池車26%</p> <p>・欧米、中国などの電気自動車などの取り組み現状を記載すること。</p>	4	C	<p>本県ではFCVやEVなど脱炭素モビリティの普及を進めています。どの用途でどのエネルギーを優先すべきかについては、エネルギー効率だけでなく、安定供給や経済効率性、環境適性に加え、社会情勢や技術の進展などを踏まえつつ、見極めていくことが必要と考えています。</p> <p>本構想は、水素社会を推進することを目的としておりますので、FCV車について取り上げています。</p>
全体 (水素の種類・導入目標やCO ₂ 削減など数値的な目標値)	<p>・グリーン水素を使わなければ、エネルギー実質ゼロにならないことを記載すること。</p> <p>・グリーン水素導入目標を設定し、グリーン水素製造、確保のための具体策を記載すること。</p> <p>2030年 グリーン水素30%、2040年同50%、2050年100%にするなど。</p> <p>同じくCO₂削減目標を記載すること。その時に電気自動車を何%、プラグインハイブリッド車何%などの目標数値も記載すること。</p>	2	A C	<p>製造時にクリーンな水素を活用してこそカーボンニュートラルが実現されるものと承知しており、本構想では、国の水素社会推進法で定める「低炭素水素等」の利活用を大前提として「環境に優しい低炭素社会」を目指すこととしており、同内容について14ページに記載します。</p> <p>本構想は、水素利活用に関する県の取組の方向性を示すものであり、具体の施策目標等は、今後の国際的な制度動向や技術進展等を踏まえ、個別計画等において検討していくものであると考えます。</p>

提出された意見等の概要とこれに対する考え方

案件名 兵庫水素社会推進構想改定案
 意見募集期間 令和8年2月24日～令和8年3月16日
 意見等の提出件数 21件（8名）

A 反映した	計画等に反映した意見
B 既に盛り込み済	その趣旨が既に計画等に記載されている意見
C 今後の検討課題	今後、計画等を推進する上での課題とする意見
D 対応困難	対応が困難な意見
E その他	計画等に関係のない意見や感想

項目等	意見等の概要	件数	対応	県の考え方
全体 (科学的データの扱い等)	<ul style="list-style-type: none"> 科学的なデータを踏まえて、対策をとること。 国際エネルギー機関IEAの基本整理は水素は「電化できない分野」に限定して使うべきという考え方を記載すること。 水素利用は、長距離航空機、化学・石油精製、国際海運など、効率的に利用できる分野に限定すること。 	3	B	IEAでは、「低炭素水素及び水素由来燃料は、重工業や長距離輸送のように排出削減が困難で、代替手段が存在しない、または電化が難しい分野の脱炭素化において重要な役割を果たし得る。」(IEA公式ページ“Hydrogen - Low-Emission Fuels”)としている事などを踏まえ、本構想では、水素を活用する意義として、環境負荷低減の観点から「特に電化が難しい分野での活用が期待」される旨を記載済みです。(14ページ)
全体 (省エネへの取組)	<ul style="list-style-type: none"> 何より省エネを進めることが有効だということに記載すること。 	1	A	18ページにて既に省エネ対策については言及（ZEH/ZEBといった省エネ対策と併行して）していますが、より明確にするため「①環境に優しい社会」の説明文内に、「省エネ対策と併行して」を追記します。
全体 (今後の普及啓発)	<p>①【次世代への普及啓発と教育コンテンツの充実】 2050年の将来像をストーリー形式で示した内容は、子どもにも理解しやすく、教育現場等で活用可能な構成であると受け止めた。このイラストやストーリーを基に、学校教育や地域イベントにおいて水素エネルギーを身近に学べる副読本やデジタル教材を整備することが有効であると考えます。</p> <p>②【次世代エネルギーを体感する機会の創出】 カーボンニュートラル実現に向けて、新エネルギーを生活の中で身近に感じられる機会を拡充することが重要である。公共施設や商業施設における給電デモの実施など、県民が日常の延長線上で次世代エネルギーを体験できる場を設けることにより、その利便性やクリーン性への理解を促進し、共感形成につながると考える。</p>	2	E	<p>①ご意見のとおり、今後の取組として子どもたちが水素エネルギーを身近に感じられる教育コンテンツは必要と考えます。水素社会を担う次世代に向けて、イラストやストーリー等を活用し、水素社会の姿を分かりやすく伝えるための効果的なアプローチについて、幅広く検討してまいります。</p> <p>②これまで県内各地のイベント等において、パネル展示や水素体験会などを通じて、県民の皆さまへの普及啓発に取り組んできたところです。いただいたご意見を参考に、引き続き、普及啓発の充実に努めてまいります。</p>
全体 (用語の解説)	<p>計画は、現状説明に多くの紙幅を費やす一般的な行政計画と異なり、将来に向けた取り組みが中心で読みやすい構成となっている。アニメの活用など、一般の人にも理解しやすい工夫がされている点も評価できる。さらに、県内企業の最新の取り組みが整理されており、水素社会の実現が近いことを実感できる内容となっている。一方、万人にとってより分かりやすくするため、例えば、CO2フリー水素、水素サプライチェーン、グリーン水素、グリーンスチール等専門用語の解説を充実させると、理解が一層深まると考える。</p>	1	A	<p>専門用語については極力解説を掲載しておりましたが、ご意見をいただきました用語についても、以下ページに用語の解説を追記します。</p> <ul style="list-style-type: none"> CO2フリー水素：7ページ サプライチェーン：25ページ グリーン水素：27ページ グリーンスチール：27ページ
第5章. 将来需要量の推計	<p>2050年の水素利活用姿が多数のイラストで分かりやすく示され、既存の技術開発や県内での水素バス運行の事例に触れ、関心と期待が高まった。</p> <p>一点、水素需要量は水素とeメタンの合計で400万tとなっているが、eメタンは水素と炭素が結合してできているので、eメタンのうち水素の重さだけにしないと、水素需要量とは言えないのではないか。</p>	1	A	<p>本構想において示している 2050年の水素需要量（約400万トン）は、水素そのものの需要量に加え、e-メタンの需要量を水素換算した値として整理したものです。</p> <p>41ページに上述の旨を追記します。</p>
第7章. 取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 2050年の姿や取組の方向性はあるが、具体的に取組を進めるためには、数値目標（利用量・CO₂削減量・普及台数）が必要ではないか。 	1	C	<p>本構想は、水素利活用に関する県の取組の方向性を示すものであり、具体的な施策目標等は、今後の国際的な制度動向や技術進展等を踏まえ、個別計画等において検討していくものであると考えます。</p>